

だいじょうぶ 大丈夫

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」

けなげなきつねのぬいぐるみ「こん」は、女の子の「あき」ちゃんを守ろうとします。「こん」は幾度となく困難に遭遇します。それでもあきちゃんが、安心してできるようにいつも「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と言ってくれてました。“こんとあき【作：林明子】”という絵本です。



子どもは大人になるまで、いろんなことを経験して成長します。失敗しないようにではなく、試行錯誤する過程での学びの方が多くあると思います。一人で出来ない事を仲間と共に達成したり、いろんなことを一生懸命頑張ってます。子どもたちにとって安心・安全な園や学校は、社会を生き抜くための力を育ててもらえるところだとわたしは思っています。だからこそ、家庭は社会で頑張った分の疲れが癒され、次の日の頑張りに向けての充電機能であってほしいです。子育ては毎日毎日大変です。大人も悩まされ、親子共に「上手いかないなあ」と心も曇り空にもなり、時には雷の怒りや情けない時の涙の雨、親子共に心が快晴の飛びきりの笑顔！いろんなことが親子で繰り返されます。担任の先生も同じ気持ちかもしれません。そして、いつか18歳を迎え、子どもは自立の扉をさらに邁進して社会に旅立ちます。



子どもにとって安全安心の“安全基地”が家庭や学校に。絵本のきつねの「こん」のように切磋琢磨している子どもの支えを…。『大丈夫！大丈夫！そばにいるから、頑張ってください。失敗してもいいからチャレンジしてみよう。困ったら手伝うよ。悲しい時はそばにいるよ。腹が立ったらお話聴いてあげるよ。どんなことがあってもそばにいるよ。』

「大丈夫」の漢字三つには「人」が3つある。3人の支えがある校長先生に教えて頂きました。私たち大人も今、ストレスの多いコロナ禍を一生懸命頑張る、試行錯誤の日々です。すべての人にとっての“安全基地”の存在のヒト・モノがあるのではないのでしょうか。特に子どもはまだ未熟です。子どもの育みは、誰か一人でもできません。家庭も学校もそして地域の方のお支えて「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と子どもを支えてあげたいものです。もうすぐ、長い二学期がやってきます。本来の自分の力が発揮できるように、夏休みは家庭と地域で、温かい見守りを、どうぞよろしく願いします。